

1	名古屋	成章小学校	よしかね みさ 吉 兼 未 紗
分科会番号	8	分科会名	音 楽 教 育

協働的な活動を通して音楽表現を楽しむ児童の育成

1 研究のねらい

私は、友達との協働的な活動を通して音楽表現を楽しむ児童を育てたい。私が考える「音楽の楽しさ」とは、曲のイメージをふくらませて自分の思いをもち、それに合った表現をすることや、友達と一緒に声や音、気持ちを合わせて演奏することによって感じられるものであると考える。

本学級の児童は、知っている曲が流れると体を動かしながら聴いたり、歌い出したり、音楽の授業に元気いっぱいに取り組む姿が見られる。しかし、一人一人を観察してみると、周りと合わせることなく怒鳴るように歌っていたり、その周りにいる児童は耳を塞ぎながら歌ったりしていることがある。また、いつもは活動に意欲的な児童も、「曲に合わせて体を動かしてみよう！」と投げかけると、「曲に合わせてってどうしたらいいのだろう？」と、困ってしまう様子が見られた。知らない曲や、今までに経験のない活動に対しては、「できないかもしれない」と消極的になってしまう児童も多いことが分かった。これは、友達と声や音、気持ちを合わせて演奏する機会が少ないことや、音楽を特徴付けている要素（以下、音楽の諸要素）を意識して音楽を聴いたり歌ったりする経験が少ないことが原因だと考える。

そこで本実践では、「こんな風に表現したい」という思いに合う表現を見つけるために、友達と声を合わせながら音楽の諸要素を基に歌い試す活動を通して、音楽表現を楽しむことができるようにしていきたいと考えた。

手立て① 表現方法を考え、歌い試す活動（なりきりタイム）

強弱や音色を変化させて歌い試す

友達と聴き合ったり、録音機能を利用したりすることで、思いに合う表現方法を見つける

手立て② 自分たちの表現を友達に伝える活動（グッドタイム）

みんなの前で発表する

よかったところを伝え合う

2 研究の内容

(1) 研究の対象 2年1組 28人

(2) 実践計画

<実践1> お花のようすを 声やみぶりであらわそう

- 花の様子を想像し、表現方法を友達と歌い試しながら曲に対する思いをもつ（手立て①）
- 思いに合った表現になっているかを聴き合う（手立て②）

<実践2> 山びごっこであそぼう

- 様々な生き物が山びごっこで話す様子を想像し、表現方法を友達と歌い試しながら曲に対する思いをもつ（手立て①）
- 思いに合った表現になっているかを聴き合う（手立て②）


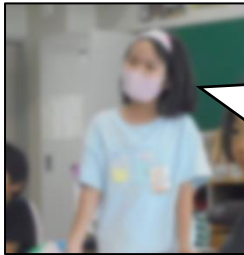

協働的な活動を通して、音楽表現を楽しむ児童

3 実践の経過

〈実践1〉お花のようすを 声やみぶりであらわそう

教材：「ちいさなはたけ」

- (1) ねらい：強さや音色を変化させて、自分たちの思いに合った花の様子を表現することができる。
- (2) 実践1の様子

学習活動 (○) と教師の働きかけ (◎)	児童の様子												
<p>手立て① (なりきりタイム パート1)</p> <p>T:「強さって何があったかな。」</p> <p>○ 強さを変化させて歌う。</p> <p>T:「みんなは、どんな声が出せますか。」</p> <p>○ どのような音色(声色)があるかをみんなで考え、歌い試す。</p> <p>◎ 録音し、咲いている花の様子が違うことを確認する。</p> <p>T:「悲しい顔で歌うと、悲しい声が出るよ。」</p> <p>T:「どんなお花が咲いたかな？ 想像しながら、みんなの歌声を聴いてみよう！」</p>  <p>【録音をみんなで聴く様子】</p> <table border="1" data-bbox="212 1240 753 1404"> <tr> <td>楽しい</td> <td>明るい</td> <td>元気な</td> <td>はずんだ</td> </tr> <tr> <td>かなしい</td> <td>しずかな</td> <td>おどけた</td> <td>ゆったりとした</td> </tr> <tr> <td>はげしい</td> <td>いさましい</td> <td>やさしい</td> <td>やわらかい</td> </tr> </table> <p>【児童に示した音楽の感じを表す言葉の例】</p>	楽しい	明るい	元気な	はずんだ	かなしい	しずかな	おどけた	ゆったりとした	はげしい	いさましい	やさしい	やわらかい	<p>児童の様子</p> <p>C:「強いとか、弱いとか…」</p> <p>C:「だんだん強い、だんだん弱いもある！」</p> <p>C:「元気な声！」</p> <p>C:「宇宙人の声も出せるよ！」</p> <p>○ 録音された自分たちの歌声を聞いて、花の様子を想像する姿が見られた。</p>  <p>悲しい音色は、枯れているお花だと思いました。</p>  <p>元気な音色は、ひまわりみたいです。</p> <p>【考えを発表する児童】</p> <p>○ 強さや音色を変えると、想像する花の様子も変わると気付いた。</p>
楽しい	明るい	元気な	はずんだ										
かなしい	しずかな	おどけた	ゆったりとした										
はげしい	いさましい	やさしい	やわらかい										
<p>手立て① (なりきりタイム パート2)</p> <p>○ 音楽の感じを表す言葉を参考に、どのような様子の花を咲かせたいかグループで話し合う。</p> <p>○ 強さや音色をどのようにしたら、選んだ花に近づくかを相談する。</p> <p>○ グループごとに練習方法を選びながら、練習する。</p>	<p>○ 9グループに分かれていたが、「やさしい花」「元気な花」を選ぶグループが多かった。</p> <p>C:「やさしいお花だから、強さは少し弱めじゃない？」</p> <p>C:「音色はやさしい感じだね。」</p> <p>C:「動きも少し小さめにしようよ！」</p> <p>○ 前時の知識を生かして、強さや音色を考える様子が見られた。</p>												



【録音ブースで歌う児童の様子】



強さはいいけど最後の「パッ」もそろえたいね。

【録音を聴くグループ】

- ◎ 録音ブースに来たグループと一緒に、録音を聴き、表そうとしているお花になっているかを確認する。

T:「元気なお花が咲いたかな? どう思う?」

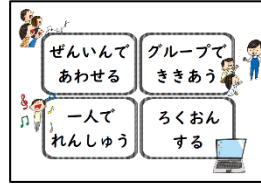
T:「やさしいお花にするために、何に気を付けて歌っているの?」

手立て② (グッドタイム)

- 発表を聴いたあと、グッドカードを表示し、いいなどと思った表現を認め合う。
- ◎ 2つの観点にしぼって感想を聞いていく。



【友達の発表を聴く児童の様子】



【練習方法と、練習方法を選ぶ様子】

C:「とりあえず、みんなで歌ってみる?」

C:「そうだね。できたら録音しようよ。」



【グループごとに練習する様子】

C:「ちゃんと元気なお花になってる!」

C:「少し弱くして歌っています。」

C:「早くみんなに発表したい!」

- 思いに合わせて表現できたことで、発表に前向きな言葉が児童から多く聞かれた。

- 歌の表現だけでなく、身振りの大きさにも工夫が見られた。

C:「最初から最後までずっと強かったから、元気なお花になっていました。」

C:「少し小さく歌っていて、やさしい声に聞こえたよ。」

【つよさ・ねいろ】がよかったですよ
だって...さいろからさいろまで、
やさしくてすてきでしたよ
()より

【つよさ・ねいろ】がよかったですよ
だって...小ごえで"やさし
かったです。
(りお)より

【児童が記入したグッドカード】

(3) 成果と課題

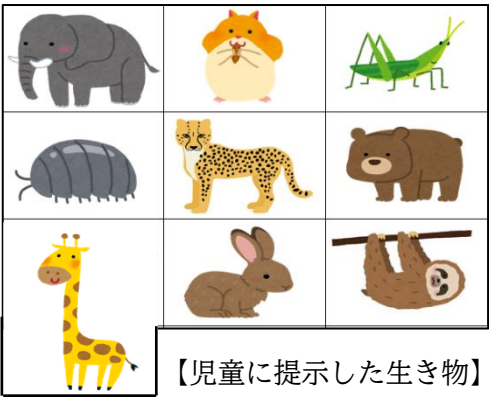
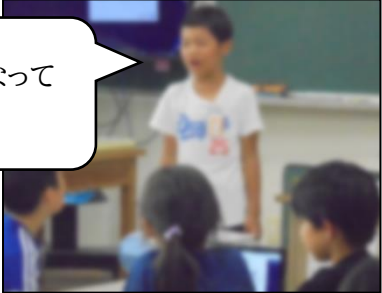

「**手立て1**なりきりタイム」では、録音機能を使って自分たちの歌声を振り返る時間をつくることで、強弱や音色をより気を付けようとする意識をもたせることができ、思いに合った表現をすることにつながった。しかし、録音を聴いたあとの話し合いの視点が曖昧だったため、「次はもっとこうしてみよう！」という、表現方法の工夫には至らなかった。

「**手立て2**グッドタイム」では、「強さがいいね!」「音色がいいね!」と聴く観点を明確にしたグッドカードを用意したことで、音楽の要素である強弱や音色を意識して発表を聴く姿が見られた。しかし、実際にどこがよかったかを問うと、強弱についての回答が多く、音色の違いについて理解して表現することは少し難しいと感じた様子だった。音の長さなど子どもたちに伝わりやすい音楽の諸要素を用いて、表現の幅を広げる必要があると感じた。

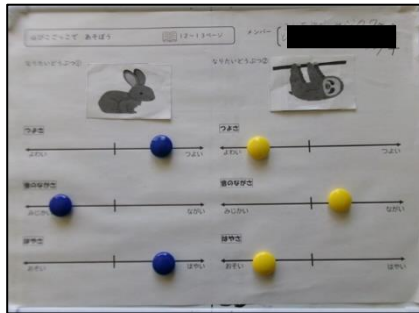
〈実践2〉山びごっこであそぼう 教材:「やまびこさん」

(1) ねらい: 音楽の諸要素を変化させ、様々な生き物が山びごでお話をしている様子を表現することができる。

(2) 実践2の様子

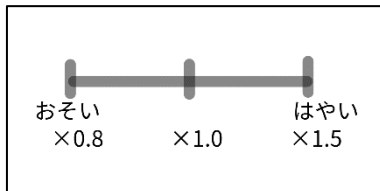
学習活動 (○) と教師の働きかけ (◎)	児童の様子
<p>手立て① (なりきりタイム パート1)</p> <p>T:「生き物になりきって、まねっこをしながら歌ってみましょう。」</p> <p>○ 生き物になりきって「山びごっこ」を歌う。</p> <p>◎ 強さや音の長さ、高さについて表現の工夫がしやすそうな生き物をいくつか提示した。</p> <p>◎ 様々な生き物の声でまねっこをしながら歌うことで、自分は何の生き物になりきりたいか、思いをもてるようにした。</p> <div data-bbox="225 1370 715 1765" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>【児童に提示した生き物】</p> </div>	<p>○ 小さい生き物は弱い声で歌ったり、のんびり動く生き物は音の長さを十分に保って歌ったりと、それぞれ工夫して表現することができていた。</p> <div data-bbox="826 1115 1385 1406" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>うさぎになって歌います!</p> </div> <div data-bbox="826 1420 1433 1697" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>少し弱い声で歌って、だんごむしになりきます!</p> </div> <p style="text-align: center;">【代表で歌う児童の様子】</p>
<p>手立て① (なりきりタイム パート2)</p> <p>○ グループになり、山びごでお話をする動物を話し合う。</p>	<p>○ 「全員で一緒に」「一人で練習」「他のグループと聴き合う」「録音する」の4つの選択肢の中から選びながら練習することができた。</p>

- ◎ グループごとに「なりきりカード」を用いて、マグネットの位置で表現の仕方を表すことで、「次はもっとこうしてみよう！」と児童が試しながら練習できるようにした。



【なりきりカード】

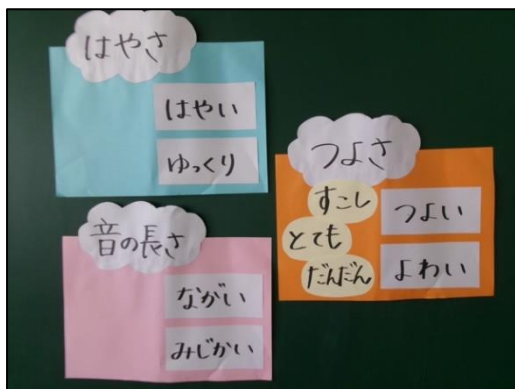
- 歌い試し、グループで決めた動物の声に聴こえるか確認する。



【ロイロノートで送った音源】

手立て②（グッドタイム）

- 他のグループの演奏を聴き、どの生き物になりきっているかを当てる。
- ◎ 答えるときには、音楽の諸要素と合わせて発表するように声を掛けた。



【児童に示した鑑賞の観点】



【表現の工夫について話し合う児童の様子】

C:「うさぎになりたいから、音を短くして跳ねて聞こえるようにしてみようよ。」

C:「バッタは小さいから、弱い声がいいかな。」



【録音して、自分たちの表現を確かめる様子】

C:「何の生き物でしょう？」

C:「音が短いから、バッタだと思いました。」

C:「正解です！」

C:「もう一つは何でしょう？」

C:「大きな声だから、くまです。」

C:「違います。」

C:「少し速く歌っていたから、チーターです。」

C:「正解です！」



【クイズに進んで答える児童の様子】

(3) 成果と課題

「**手立て1**なりきりタイム」では、「なりきりカード」を活用したことで、自分の思いに合った表現の工夫について話し合うことができた。また、録音機能を使って自分たちの歌声を振り返る時間をつくることで、客観的に自分たちの表現を振り返ることができた。しかし、話し合う時間が長くなり、練習時間が短くなってしまった点が課題として挙げられた。今後は、練習方法を選択する場面で、他のグループと聴き合う時間を教師が設定することで、録音以外にも客観的に自分たちの表現を振り返ることができるのではないかと考える。

「**手立て2**グッドタイム」では、クイズ形式にしたことで、「当ててほしい!」「当てたい!」と発表するグループも聴くグループも表現の工夫を意識することができていたように感じた。聴く観点が一次実践よりも多くなったことで混乱する児童もいたため、観点別に「強さはどうだった?」などと問いかけることで、クイズに正解できる児童が増えてきた。また、「もっと音を短くするとよかった。」などとアドバイスし合うこともできた。

4 実践のまとめ

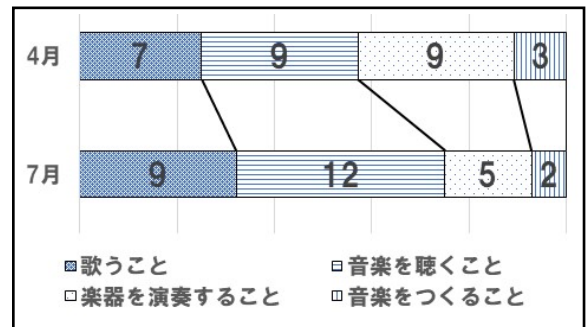
今回の実践では、手立て1の「なりきりタイム」によって、児童がどのように歌いたいか思いをもったり、友達と声や気持ちを合わせて歌ったりすることができた。また、録音をして自分たちの歌声を客観的に聴くことで、思いに合った表現ができていると自信をもてたり、もっと歌いたいという意欲につながったりした。

手立て2の「グッドタイム」は、聴く観点を明確にしたことで、他のグループの表現の工夫について認め合ったりアドバイスし合ったりすることができるようになった。

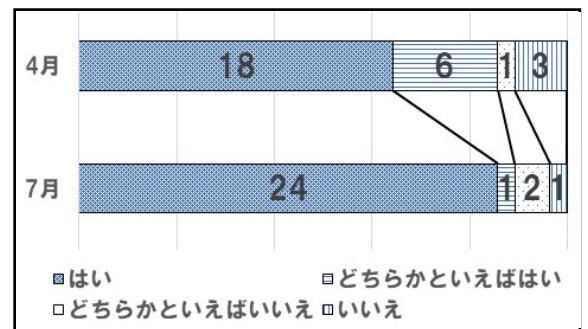
4月と7月に行った実態調査は、右の通りである。音楽の中で好きな活動を問うと(表1)、4月は「楽器を演奏すること」が多かったが、7月は「歌うこと」「音楽を聴くこと」を選ぶ児童が増えた。「友達の話や、声を聴いて歌うようにした」といった記述も見られた。また、みんなで一緒に歌うと楽しいと感じるかどうかを問うと(表2)、「はい」と回答した児童が2割以上増えた。この結果から友達の声聴きながら歌唱をすることの良さを少しずつ感じることができてきていると捉えることができる。

また、歌うときに気を付けていることがあるかどうかを問うと、「はい」と答えた児童は32%から82%に増加し、半数以上の児童に変容が見られた。今後は、様々な曲に合う声を見出し児童が選択しながら歌うことで音楽表現をより楽しむことができるように引き続き授業を行っていきたい。

【表1 音楽の中で特に好きな活動は何ですか】(N=28)



【表2 みんなで一緒に歌うと楽しいですか】(N=28)



声を大きくしたり、小さくしたりして歌う
 (まわりの音をきいてうたうの音がくはりました)

【歌うときに気を付けていることについての児童の記述】